

# 地 図

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	地図 701	AB 192	令和2年
46	帝国書院	帝 国◆	地図 702	A 4 188	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

## 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者の略称
2冊	東書、帝国

## 2 学習指導要領における教科・分野の目標等

### 【社会科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

### 【地理的分野の目標】

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

### 【参考：中学校学習指導要領解説 社会編 第2章「社会科の目標及び内容」 第2節 1 (1) 目標より抜粋】

また、情報を読み取る技能に関わって、地理的分野の学習で用いられる資料には、地図や統計、写真など様々なものがあるが、その中でも最も重要な役割を果たしているのが地図である。現代のように地域間の交流の盛んな時代においては、社会的事象を位置や空間的な広がりなどを考慮して地図上で捉えることは効果的であり大切である。また、地域の変容が激しくなっている現代では、新旧の地図を比較し関連付ける学習は、地域の変容の軌跡を捉え、地域の課題や将来像などについて考える上でも大切である。

さらに、情報をまとめる技能に関わっては、上記の読図力とともに、特に地理情報を地図にまとめて主題図を作成する作図力などの地理的技能を、地理学習の全般にわたってしっかり身に付けさせるよう工夫することも大切である。

### 【参考：中学校学習指導要領解説 社会編 第2章「社会科の目標及び内容」 第2節 1 (2) 内容より抜粋】

なお、「その際、教科用図書『地図』を十分に活用すること」と付言したのは、教科用図書「地図」、すなわち地図帳には一般図や主題図、その他統計や写真などたくさんの地理情報があるが、それらが必ずしも十分に活用されていない状況が見られ、こうした状況を改善し、地理学習がより一層充実することを期したためである。

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査研究項目（調査研究の対象）	対象の根拠（目標等）	数値データの単位
a 地図等の種類	地理・目標(1)	個
b 基本図等	地理・目標(1)	個
c 基本図の図法の種類	地理・内容A、B、C	個
d 資料図の目的別分類（世界）	地理・目標(1)	個
e 資料図の目的別分類（日本）	地理・目標(1)	個
f グラフ・写真・図等の分類	地理・目標(1)	個
g 索引に記載されている地名数（世界）		個
h 索引に記載されている地名数（日本）		個

##### イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項のc、d、eとの関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

- c 基本図の図法の種類（別紙2-1）
- d 資料図の目的別分類（世界）（別紙2-2）
- e 資料図の目的別分類（日本）（別紙2-3）

<その他>

- \*1 我が国の位置と領土をめぐる問題の扱い（別紙2-4）
- \*2 北朝鮮による拉致問題の扱い  
  - < 調査の結果、\*2については記載の無いことを確認した。 >
- \*3 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い（別紙2-5）
- \*4 オリンピック・パラリンピックの扱い（別紙2-6）

###### ② 調査対象事項を設定した理由等

学習指導要領によれば、社会的事象を位置や空間的な広がりなどを考慮して地図上で捉えることや、地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど地理的技能を身に付けることが重視され、特に地図を十分活用することが求められている。地図の中でも資料図は、学習の目的に応じて作成され、学習教材としての特色が表現されたものであり、教科用図書「地図」の構成上重要な役割をもつ。したがって、資料図について、その内容を調査・比較することとした。

- ・ 我が国の位置と領土をめぐる問題については、学習指導要領に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。（\*1）
- ・ 東京都教育委員会は、教育目標の基本方針1として「人権尊重の精神と社会貢献の精神の育成」を掲げ人権教育を推進してきた観点から、児童・生徒が人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、北朝鮮による拉致問題の扱いについて調査する。（\*2）
- ・ 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。（\*3）
- ・ 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。（\*4）

③ 調査研究の方法

資料図を「地形・気候・国土利用」、「資源・産業・貿易」、「人口・交通」、「生活・文化・歴史」、「その他」の5つに分類し、その項目（主題）名を記述する。

<その他>

- \* 1 我が国の位置と領土をめぐる問題の扱いについて、北方領土、竹島、尖閣諸島等に関する項目及び記述の概要を調査する。
- \* 2 北朝鮮による拉致問題について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \* 3 防災や、自然災害時における関係機関の役割等について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \* 4 オリンピック・パラリンピックについて取り上げている項目及び記述の概要を調査する。

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

以下の観点により、箇条書きで記述する。

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫
- イ ユニバーサルデザインの視点
- ウ デジタルコンテンツの扱い
- エ 航空写真や景観写真の活用
- オ 環境問題への配慮

「別紙1」【(1)内容ア 調査研究の総括表】(中学校 地図)

項目	a 地図等の種類		b 基本図等		c 基本図の図法の種類		d 資料図の目的別分類(世界)				e 資料図の目的別分類(日本)				f グラフ・写真・図等の分類					g 索引に記載されている地名数(世界)	h 索引に記載されている地名数(日本)										
	平面図	鳥瞰図・その他の地図	世界全図	日本全図	世界州別図	日本地域別図	計	世界	日本	計	地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史	その他	計	地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史	その他	計									
発行者																															
東書	326	21	347	1	0	20	43	64	5	3	8	24	48	15	35	7	129	44	30	14	19	11	118	71	107	37	150	39	404	1,358	2,152
帝国	374	69	443	1	0	29	37	67	5	3	8	32	52	30	38	10	162	33	64	28	23	30	178	78	118	40	138	32	406	1,749	2,567
平均値	350.0	45.0	395.0	1.0	0.0	24.5	40.0	65.5	5.0	3.0	8.0	28.0	50.0	22.5	36.5	8.5	145.5	38.5	47.0	21.0	21.0	20.5	148.0	74.5	112.5	38.5	144.0	35.5	405.0	1,553.5	2,359.5

表中の「平均値」は小数第2位を四捨五入した。

【地図の数え方等】

- ※ a 「鳥瞰図・その他の地図」は、平面図として分類できないものを全てを数えた。
- ※ b 「基本図」は、主に地図の中で「縮尺」、「境界」及び「土地の高さの広がり」が示されているものを数えた。
- ※ c 「基本図の図法の種類」は、同一の図法が複数回出ていても一つとして数えた。
- ※ d、e 「資料図の目的別分類」では、一つの資料図に複数の分類項目にまたがる要素がある場合にはその要素ごとに数えるため、一つの資料図を複数回数数えている。
- ※ f 「グラフ」は、「輸出・輸入」のように「対」になっているものは一つとして数えた。時間差を設けて「推移」を示しているものも、その組合せを一つとして数えた。
- ※ また、複数のグラフが同じ表題で掲載されている場合は、そのひとまとまりを一つとして数えた。
- ※ f 「写真」は、大小を問わず一つずつ数えた。但し、同じ場所の景観の変化を示すものは一つとして数えた。
- ※ f 地図上の「記号」の役割を果たしていると考えられるものは、「図」としては数えない。

「別紙2-1」【 (1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 】 (中学校 地図)

c 基本図の図法の種類		
発行者	世界	日本
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正積方位図法</li> <li>・正距円錐図法</li> <li>・正積円錐図法</li> <li>・正距方位図法</li> <li>・エケルト図法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正角円錐図法</li> <li>・多面体図法</li> <li>・UTM図法</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミラー図法</li> <li>・ランペルト正積方位図法</li> <li>・正距円錐図法</li> <li>・南極中心の正距方位図法</li> <li>・エケルト図法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正角円錐図法</li> <li>・ランペルト正積方位図法</li> <li>・ランペルト正角円錐図法</li> </ul>

d 資料図の目的別分類 (世界)	
地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易
世界の地形 世界の火山・地震 世界の気候区と海流 世界の年降水量と年平均気温 アジアの自然環境 アジアの自然環境 アジアの降水量 中国の気温と降水量 ヨーロッパの鳥瞰図 ヨーロッパの自然環境 ヨーロッパの降水量 ヨーロッパの1月の平均気温 アフリカの自然環境 アフリカの降水量 北アメリカの自然環境 北アメリカの降水量 北アメリカの鳥瞰図 南アメリカの自然環境 南アメリカの降水量 オセアニアの自然環境 オセアニアの降水量 標高による動植物の変化 ライオン川 アマゾン川	再生可能エネルギーを利用した発電の普及 きれいで安全な水を利用できる人の割合 世界一人あたり国内総生産(GDP)と産業別人口の割合 世界の穀物生産 世界の畜産 世界の林業 世界の水産業 世界のエネルギー資源の分布と貿易 世界の鉄鋼生産 世界の鉄鋼生産 世界の自動車生産 世界における日本企業の分布 朝鮮半島の産業 台湾の産業 中国の農業地域 中国の経済格差と人口の増減 中国の国土開発 中国の地下資源 中国の工業 中国沿岸の経済 東南アジア・南アジアの農業 東南アジア・南アジアの工業 アジアの主な国から日本への輸出 鉱産資源の分布と一人あたりのGDP 西アジア・中央アジアの農業 ヨーロッパの鉱工業 ヨーロッパの経済 ヨーロッパの観光 ヨーロッパの自動車工場場の分布 ロシアと周辺国の農業 ロシアのエネルギー資源とパイプライン アフリカのモノカルチャー経済 アフリカの鉱工業 アフリカの一人あたりの国内総生産 アフリカへの観光客の増加 アメリカ・カナダの農業分布 アメリカ・カナダの工業分布 アメリカの工業地域の変遷 シリコンバレー アメリカの大企業本社 南アメリカの鉱工業 ブラジルにおける大豆生産の拡大 オセアニアの鉱工業 オセアニアの牧畜 オーストラリアの輸出相手国の変化 オーストラリアへの旅行者の変化
人口・交通	世界の国・地域の人口密度 世界の国・地域の合計特殊出生率 世界の平均寿命 世界の5歳未満死亡率 国際的な人口移動 アジアの人口100万人以上の都市の変遷 中国の経済格差と人口の増減 中国の国土開発 世界中に広がる中国系住民・インド系住民 ヨーロッパの外国人人口と移動 アフリカの5歳までの死亡率 中東アメリカからアメリカ合衆国への人口移動 南アメリカ各国の日系人 リオデジャネイロに広がるファベラー 世界の航空路
生活・文化・歴史	小学校での教育を受けている子どもの割合 世界と日本のカロリー摂取 世界の紛争と難民の発生 世界の住居の材料 世界の食文化 世界の言語 世界の宗教 主な世界文化遺産 日本の文化遺産 オリンピックとサッカーワールドカップの開催国 東アジアの民族 中国の伝統的な食生活 古代・中世の陸上・海上交通 東南アジア・南アジアの宗教 クアラ Lumpur の宗教寺院の分布 西アジア・中央アジアの言語分布 エルサレム市街地 ヨーロッパの国境の変化 ヨーロッパの言語分布 スイスの言語 ヨーロッパの食生活と穀物 EU加盟国の拡大 ロシアと周辺国の言語と民族 100年前のアフリカ アフリカの公用語 大西洋の航路 18世紀の大西洋交易 ギニア湾に残る地名 北アメリカの言語分布 アメリカ合衆国の領土の拡大 ニューヨーク中心部 ロサンゼルス民族居住区 南アメリカの民族分布 アボリジニの居留地域 オセアニアの国々の公用語と国旗
その他	中心からの距離が正しい地図 面積が正しい地図 世界の標準時 さまざまな環境問題 世界の二酸化炭素排出量 アマゾン川流域の開発と熱帯林伐採 世界のインターネットの利用率
世界の観光 世界の国々の結びつき	

※ [ ]は資料が掲載されている国や地域を示す。

「別紙2-2」【 (1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 帝国 】 (中学校 地図)

d 資料図の目的分類 (世界)		資料図の目的分類 (世界)		
地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史	
<p>北半球・南半球</p> <p>世界の地形</p> <p>世界の造山帯と地震</p> <p>陸く大地</p> <p>動く大気</p> <p>世界のさまざまな気候</p> <p>1年間の降水量</p> <p>植生と土地利用[アジア州]</p> <p>気温と降水量[アジア州]</p> <p>中国とそのまわりをながめてみよう</p> <p>気温と降水量[中国]</p> <p>気温と降水量[朝鮮半島]</p> <p>土地利用[朝鮮半島]</p> <p>東アジアと日本の交流の歴史</p> <p>森林の変化—スマトラ島(インドネシア)—</p> <p>植生と土地利用[アジア州]</p> <p>気温と降水量[アジア州]</p> <p>アジア州をながめてみよう</p> <p>ヨーロッパをながめてみよう</p> <p>植生と土地利用[ヨーロッパ]</p> <p>気温と降水量[ヨーロッパ]</p> <p>1月の気温[ロシア連邦]</p> <p>北アメリカ州をながめてみよう</p> <p>植生と土地利用[北アメリカ州]</p> <p>気温と降水量[北アメリカ州]</p> <p>南アメリカ州をながめてみよう</p> <p>植生と土地利用[南アメリカ州]</p> <p>気温と降水量[南アメリカ州]</p> <p>森林の減少—ブラジル—</p> <p>エルニーニョ現象の発生[太平洋・インド洋]</p> <p>オセアニア州をながめてみよう</p> <p>オセアニア州の植生と土地利用</p>	<p>中国とそのまわりをながめてみよう</p> <p>農業の分布[中国]</p> <p>穀物の生産[中国]</p> <p>おもな鉱産資源[中国]</p> <p>おもな工業[中国]</p> <p>経済発展と人の移動[中国]</p> <p>中国の輸先とおもな輸出品目</p> <p>農業[東アジア]</p> <p>東アジア・南アジアの稲作</p> <p>鉱工業[東アジア]</p> <p>南アジアの農業</p> <p>南アジアの米と小麦の生産</p> <p>南アジアの鉱工業</p> <p>中央アジア・西アジア・北アフリカの産出国</p> <p>ペルシア湾岸の油田地帯</p> <p>南アジアと西アジアの労働者の結びつき</p> <p>アフリカ州をながめてみよう</p> <p>モノカルチャー経済[アフリカ州]</p> <p>鉱工業[アフリカ州]</p> <p>ヨーロッパをながめてみよう</p> <p>農業地域[ヨーロッパ]</p> <p>農業生産額[ヨーロッパ]</p> <p>ドイツの混合農業</p> <p>鉱工業[ヨーロッパ]</p> <p>工業生産額[ヨーロッパ]</p> <p>貿易[ヨーロッパ]</p> <p>国際的な観光客の移動[ヨーロッパ]</p> <p>域内の地域格差とEU予算</p> <p>農業地域[ロシア連邦]</p> <p>極東ロシアの資源開発</p> <p>北アメリカ州をながめてみよう</p> <p>アメリカ合衆国・カナダの農業の分布</p> <p>小麦・とうもろこし・米の栽培地[アメリカ合衆国]</p> <p>肉牛とぶたの飼育[アメリカ合衆国]</p> <p>カリフォルニア州のある農家(Kさんの例)</p> <p>アメリカ合衆国・カナダの鉱工業の分布</p> <p>州別工業生産額[アメリカ合衆国]</p> <p>シェールガス田の分布[アメリカ合衆国]</p> <p>シリコンバレーの鳥瞰図</p> <p>日本のおもな自動車会社の工場[アメリカ合衆国]</p> <p>アメリカ合衆国生まれの大企業の本社</p> <p>1人あたりの1次エネルギー供給(消費)量</p> <p>南アメリカ州をながめてみよう</p> <p>鉱工業[南アメリカ州]</p>	<p>人口密度[アジア州]</p> <p>人口増加率[アジア州]</p> <p>中国とそのまわりをながめてみよう</p> <p>人口密度[中国]</p> <p>経済格差と人の移動[中国]</p> <p>朝鮮半島とのつながり</p> <p>東アジアと日本の交流の歴史</p> <p>現代の大陸との交流</p> <p>タイ国内におけるバンコクへの人口集中</p> <p>各国の宗教と華人の人口[東アジア]</p> <p>南アジアの人口密度</p> <p>アフリカ州をながめてみよう</p> <p>人口密度[アフリカ州]</p> <p>ヨーロッパをながめてみよう</p> <p>人口密度[ヨーロッパ]</p> <p>外国人の移動[ヨーロッパ]</p> <p>北アメリカ州をながめてみよう</p> <p>人口密度[北アメリカ州]</p> <p>アメリカ合衆国の成立と移民</p> <p>さまざまな民族の居住区[アメリカ合衆国]</p> <p>人口密度[南アメリカ州]</p> <p>リオデジャネイロ</p> <p>日本からの移民[南アメリカ州]</p> <p>オセアニア州をながめてみよう</p> <p>人口密度[オセアニア州]</p> <p>移民の出身地[オセアニア州]</p> <p>世界の人口と人口密度</p> <p>世界の人口増加率</p> <p>世界の老年人口の割合</p> <p>世界の航空路と東京からの距離</p>	<p>特色ある住居と衣装</p> <p>特色ある料理と食事</p> <p>さまざまな言語(公用語)</p> <p>さまざまな宗教</p> <p>第二次世界大戦中(1941年)のアジア言語[アジア州]</p> <p>宗教[アジア州]</p> <p>中国とそのまわりをながめてみよう</p> <p>民族[中国]</p> <p>おもな伝統料理[中国]</p> <p>朝鮮半島とのつながり</p> <p>東アジアと日本の交流の歴史</p> <p>各国の宗教と華人の人口[東アジア]</p> <p>エルサレム旧市街</p> <p>南アジアの宗教</p> <p>イスラム教徒の多い国—アジア・アフリカ—</p> <p>砂漠の大都市 ドバイ—ダウラタウンドバイ地区—</p> <p>アフリカ州をながめてみよう</p> <p>植民地から独立国へ[アフリカ州]</p> <p>言語分布と紛争[アフリカ州]</p> <p>1日1.90ドル以下で生活する人の割合[アフリカ州]</p> <p>国境の変化[ヨーロッパ]</p> <p>EU加盟国の変化</p> <p>言語[ヨーロッパ]</p> <p>宗教[ヨーロッパ]</p> <p>ローマ中心部</p> <p>さまざまな民族からなる国々[ロシア連邦]</p> <p>宗教[ロシア連邦]</p> <p>ニューヨーク</p> <p>北アメリカ州をながめてみよう</p> <p>民族[北アメリカ州]</p> <p>アメリカ合衆国の成立と移民</p> <p>南アメリカ州をながめてみよう</p> <p>言語[南アメリカ州]</p> <p>オセアニア州をながめてみよう</p> <p>携帯電話の普及</p> <p>オリンピック・パラリンピック</p>	<p>その他</p> <p>等時帯</p> <p>ヨーロッパ中心の面積が正しい地図</p> <p>東京からの距離と方位が正しい地図</p> <p>世界のおもな環境問題</p> <p>アジア州の地域区分</p> <p>大気汚染[中国]</p> <p>サヘル周辺の砂漠化</p> <p>ロンドン中心の正距方位図法</p> <p>ブラジリア中心の正距方位図法</p> <p>キャンベラ中心の正距方位図法</p>
<p>さとうきびと大豆の栽培[南アメリカ州]</p> <p>オセアニア州をながめてみよう</p> <p>牛と羊の分布[オセアニア州]</p> <p>鉱産資源[オセアニア州]</p> <p>エネルギー資源の分布と移動</p> <p>鉱産資源の分布と移動</p>				



e 資料図の目的別分類 (日本)			
地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易	人口・交通	生活・文化・歴史
九州地方の自然環境 九州地方の土地利用 九州地方の降水量 九州地方の火山と温泉・地熱発電所 台風や土砂災害の被害を受けやすい地域 中国・四国地方の自然環境 中国・四国地方の土地利用 中国・四国地方の降水量 近畿地方の自然環境 近畿地方の土地利用 近畿地方の降水量 中部地方の自然環境 中部地方の土地利用 中部地方の降水量 北陸3県の土地利用 関東地方の自然環境 関東地方の土地利用 関東地方の降水量 東北地方の自然環境 東北地方の土地利用 東北地方の降水量 東北地方の冷害と各県の銘柄米の生産 北海道地方の自然環境 北海道地方の土地利用 北海道地方の降水量 北海道の地形と自然災害 北海道に見られるさまざまな気象 北海道の土壌 主な火山と海溝 日本の地形 露伏地(山梨県甲州市・笛吹市) 三角州(三重県津市)	九州地方の火山と温泉・地熱発電所 愛知県の自動車工業 福井県の地場産業 諏訪盆地の産業の変化 甲府盆地の産業の変化 中央高地の農業 牧ノ原の茶栽培 主な百貨店とレジャー施設の分布 東京周辺の再開発 関東地方の農業生産と流通 関東地方の農業生産と流通 情報サービス業の従事者数 東北地方の冷害と各県の銘柄米の生産 北海道の稲作の北限の変化 日本の主な火力発電所 日本の主な水力発電所 日本の主な原子力発電所 日本の再生可能エネルギーを利用した発電所の広がり 日本近海のメタンハイドレートの推定埋蔵地 日本の米の生産量 日本の野菜の生産額 日本の果実の生産量 日本の家畜の飼育頭数 日本の木材の生産量 日本の水あげ量 日本の工業地域 九州地方北部の工業地域 中部地方南部の工業地域 関東地方の工業地域 近畿地方の工業地域	中国・四国地方の老年人口の割合 高速道路や橋の変化 成田国際空港の外国人旅客者数 日本の地域間の輸送量 東京周辺の在留外国人の割合 群馬県大泉町周辺の在留外国人の割合 日本の人口分布 日本の老年人口の割合 日本の人口増減率 日本の過疎地域 日本の高速道路の発展と交通量(旅客と貨物) 日本の主な鉄道の輸送量(旅客) 日本の主な航空路 都道府県別の在留外国人数	水俣病の市町村ごとの認定患者数 環境都市を目指す北九州市 現在の大阪の中心部 日本の中心・震が関 裁判所を知らう 宮古市田老地区周辺の津波浸水域 仙台市の「津波からの避難の手引き(暫定版)」 東日本大震災の地震と津波 日本の主な公害 日本の国立公園・ラムサール条約登録湿地・ジオパーク 都道府県の区分
日	本	中国・四国地方の老年人口の割合 高速道路や橋の変化 成田国際空港の外国人旅客者数 日本の地域間の輸送量 東京周辺の在留外国人の割合 群馬県大泉町周辺の在留外国人の割合 日本の人口分布 日本の老年人口の割合 日本の人口増減率 日本の過疎地域 日本の高速道路の発展と交通量(旅客と貨物) 日本の主な鉄道の輸送量(旅客) 日本の主な航空路 都道府県別の在留外国人数	原子爆弾投下時の長崎 遣唐使の航路 元寇のルート 九州地方に広がったキリスト教 原子爆弾投下時の広島市 江戸時代(17世紀末ごろ)の大阪 東山区付近の拡大図 京都市中心部 奈良市の主な文化財と観光地 神戸市の主な文化財と観光地 東京周辺の鉄道と地価 東京中心部の「TOKYO2020」の会場 東京周辺部の「TOKYO2020」の会場 東北、北海道地方の「TOKYO2020」の会場 アイヌ語に由来する地名 日本各地の郷土料理 日本の方言分布とご当地キャラクター 旧国名 1868(明治元)年
		日本の土地利用 2012年の神戸市付近(20万分の地勢図) 1959年の神戸市付近 日本の周辺 利根川	

e 資料図の目的別分類 (日本)	
地形・気候・国土利用	資源・産業・貿易
函館市 自然[九州地方] 降水量[九州地方] シラスの分布と畜産 自然[中国・四国地方] 降水[中国・四国地方] 鳥取砂丘[中国・四国地方] 大阪湾周辺の地形—地形と歴史・防災— 自然[近畿地方] 降水量[近畿地方] 琵琶湖の水利用 本州中部と五街道 自然[中部地方] 降水量[中部地方] 越後平野の変遷 東京都周辺の地形—水と人の関わり・防災— 自然[関東地方] 降水量[関東地方] 自然[東北地方] 降水量[東北地方] 1993年の冷害と7月の気温[東北地方] 自然[北海道地方] 降水量[北海道地方] 地形と世界自然遺産 国立公園とジオパーク 日本の気候区分 おもな台風の進路 1年間の降水量 積雪量 1月・8月の気温 1月・8月の降水量 日本の地震と火山の分布 日本の領土とそのまわりの国々	農業[九州地方] 工業・交通[九州地方] 阿蘇・くじゅうの産業 宮崎平野の野菜づくり 北九州工業地帯の変化 シラスの分布と畜産 農業[中国・四国地方] 工業・交通[中国・四国地方] 水島コンビナート 八幡浜市のみかん栽培 高知平野の野菜栽培—ビニールハウスによる促成栽培— 農業[近畿地方] 工業・交通[近畿地方] 阪神工業地帯 中小企業の工場が集まる東大阪市 尾鷲の林業 八ヶ岳山麓の野菜栽培—涼しい気候を利用した野菜づくり— 名古屋とそのまわり 農業[中部地方] 工業・交通[中部地方] 中京工業地帯・東海工業地域 東海の農業 北海道と中央高地の観光地と伝統的工芸品 諏訪湖周辺の工業地域 甲府盆地の果樹栽培 農業[関東地方] 工業・交通[関東地方] 関東地方の工業地域 商業施設と物流拠点の分布[関東地方] 北関東工業地域の工場の変化 関東地方の野菜生産 坂東市(岩井)の野菜づくり 商業施設と物流拠点の分布[関東地方] 農業[東北地方] 工業・交通[東北地方] 岩木山山ろくのりんご栽培—弘前市付近— 山形盆地の果樹栽培—東根市のさくらんぼづくり— 気仙沼付近の漁業のようす 十勝平野の畑作 根釧台地の酪農 農業[北海道地方] 工業・交通[北海道地方]
人口分布[九州地方] 工業・交通[九州地方] 人口分布[中国・四国地方] 工業・交通[中国・四国地方] 中国・四国地方の交通と人口密度の変化 人口分布[近畿地方] 工業・交通[近畿地方] 京阪神の人口増加率と通勤・通学者数 京阪神の昼夜間人口の比率 人口分布[中部地方] 工業・交通[中部地方] 人口分布[関東地方] 工業・交通[関東地方] 東京周辺の人口増加率と通勤・通学者数 東京周辺の昼夜間人口の比率 商業施設と物流拠点の分布[関東地方] 人口分布[東北地方] 工業・交通[東北地方] 人口分布[北海道地方] 工業・交通[北海道地方] 人口密度(市町村別) 人口増加率 外国人人口の割合 老年人口の割合 日本の航空路 日本の鉄道網 高速道路網の発達 鉄道の発達による時間距離の変化	生活・文化・歴史 長崎市 広島市中心部 大阪湾周辺の地形—地形と歴史・防災— 江戸時代の大坂 京都市中心部 斑鳩 奈良市中心部 本州中部と五街道 東京都周辺の地形—水と人の関わり・防災— 江戸 東京大都市圏の地価分布 横浜市中心部 伝統・文化[東北地方] 日本とロシア・ソ連の国境の変遷 開拓の歴史とアイヌ語地名 日本の世界文化遺産と史跡 京都・奈良付近 伝統的な町並みの保存 地域による方言の違い 市町村数と地名 各地方の特色ある祭り・行事 日本の伝統的な料理 昔の国名と国境
環境のまち北九州市 福岡市中心部 火山災害への備え—島原半島— 広島市付近にある水害の碑の分布 神戸市付近のようす—災害への備え— 大阪湾周辺の地形—地形と歴史・防災— 大坂市中心部 琵琶湖の透明度の変化 富士山噴火時の降灰予想 洪水への備え 名古屋市中心部 東京都周辺の地形—水と人の関わり・防災— 東京都の中心部 震が関 さいたま新都心 幕張新都心(千葉市) 東京湾臨海部の開発 ヒートアイランド現象の広がり 都市型洪水への備え 東京都の大規模災害への備え 仙台市中心部 震災の被害と復興—岩手県宮古市(田老)— 札幌市中心部 雪にそなえる札幌市 釧路湿原—日本初のラムサール条約登録湿地— 東日本大震災の被害 地形図から読み取る浸水被害—茨城県常総市三坂町付近— 浸水の予想範囲や避難所などを示したハザードマップ(部分)—茨城県常総市三坂町付近— 日本の公害 都道府県	工業地域の分布 自動車工業 電子工業 世界から集まる日本の食料 日本の水産業 米の生産 各地の農業生産 野菜の生産 果実の生産 畜産物の生産 外国人旅行者の訪問地

発行者	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他 (領土の範囲等)
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本の周辺」において、「歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の『北方領土』は日本固有の領土ですが、第二次世界大戦の終了直後にソ連によって占領され、現在でもロシアによって不法に占領されています。日本はロシアに抗議する一方、外交的な交渉も続けています。」と記述している。(P191)</li> <li>・「都道府県の区分」において、北方領土を日本の国土を示す色で表している。(P192)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アジア州」の地図において、竹島と韓国ウルルン島との間に国境線が引かれている。(P29、P34、P35、P42)「都道府県の区分」でも同様である。(P192)</li> <li>・「日本列島①」において、竹島の近くに「島根県」と表記している。(P85)</li> <li>・竹島の地形図を隠岐諸島より詳細な縮尺で掲載している。また、「竹島」の表記に「隠岐の島町」と併記している。(P97)</li> <li>・「日本の周辺」において、島の写真を示し、韓国に不法に占拠されていること、外交的に竹島問題を解決しようとする努力していることを説明している。(P190)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アジア州」の地図において、尖閣諸島と大陸や台湾との間に国境線が引かれている。(P29、P34、P42)「都道府県の区分」でも同様である。(P192)</li> <li>・「日本列島②(南西諸島)」において、「尖閣諸島」の表記に「(石垣市)」と併記している。(P87)</li> <li>・「日本の周辺」において、尖閣諸島の写真を示し、日本が実効支配しており、国際社会からも日本の領土であると認められていることを説明している。(P190)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本の周辺」では、国境線や排他的経済水域を示し、南鳥島、沖ノ鳥島、与那国島が日本の領土であることを明示している。(P190-191)</li> <li>・但し書きとして、排他的経済水域の境界線は日本の法令に基づくこと、境界線の一部は関係国と協議中であることを説明している。(P190)</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本列島」において、写真「知床半島から見た国後島」を掲載し、「国後島・択捉島・色丹島・歯舞群島は、日本固有の領土ですが、ロシアが不法に占拠しています。」と記述している。(P82)</li> <li>・「日本とロシア・ソ連の国境の変遷」において、1855年には択捉島とウルップ島との間に国境線が引かれている。また、「サンフランシスコ平和条約(1951年)」の地図で北方領土の部分、北海道と同じ色で示され、我が国の領土であることを明示している。(P142)</li> <li>・「日本の領土とそのまわりの国々」において、「ウルップ島からシムシム島までの地域と、樺太の北緯50度以南の地域はかつて日本が領有していたが、現在は帰属が未定になっている。」と記述している。(P188)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アジア州」の地図において、竹島と韓国ウルルン島との間に国境線が引かれている。(P20、P24、P30、P31)「都道府県」でも同様である。(P186)</li> <li>・「日本列島」において、竹島の写真を示し、日本固有の領土であることを不法に占拠していることを説明している。また、竹島の近くに「島根県」と表記している。(P80-81)</li> <li>・竹島の地形図を5万分の1の縮尺で掲載している。また、竹島の近くに「隠岐の島町」と併記している。(P89)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アジア州」の地図において、尖閣諸島と大陸や台湾との間に国境線が引かれている。(P24、P32、P34)「都道府県」でも同様である。(P186)</li> <li>・尖閣諸島の地形図を100万分の1の縮尺で掲載している。(P79)</li> <li>・「南西諸島」において、尖閣諸島の写真を示し、日本固有の領土であることを説明している。また、「尖閣諸島」の表記に「(石垣市)」と併記している。(P77-78)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本の領土とそのまわりの国々」では、国境線や排他的経済水域を示し、南鳥島、沖ノ鳥島、与那国島が日本の領土であることを明示している。(P187-188)</li> <li>・領土・領海・領空及び排他的経済水域や接続水域の範囲について模式図を用いて示している。(P187)</li> <li>・「おもな国の排他的経済水域の面積」で、日本の国土面積と排他的経済水域の面積を示している。(P187)</li> <li>・「日本の東西南北端」では、写真だけでなく四島の地形図も掲載している。(P187)</li> </ul>

発行者	扱い方 (本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留意点(P1)</li> <li>・写真(P7)</li> <li>・資料図(P15)</li> <li>・資料図(P94)</li> <li>・写真、資料図、図(P134)</li> <li>・資料図(P134)</li> <li>・資料図、写真(P151-152)</li> <li>・図(P166)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の写真への配慮</li> <li>・住み続けられるまちづくりを</li> <li>・世界の火山・地震</li> <li>・台風や土砂災害の被害を受けやすい地域</li> <li>・東日本大震災による被害</li> <li>・東北地方の冷害と各県の銘柄米の生産</li> <li>・日本の自然環境(災害・環境問題)</li> <li>・世界の主な自然災害(2000年以降)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、教員に対して災害の写真への配慮のお願いを記述している。</li> <li>・「災害に強いまちづくり」として岩手県大槌町の写真を掲載している。</li> <li>・東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日 M9.0)を明示している。</li> <li>・九州地方の台風の通過回数が多い地域や、大規模な土砂災害を受けやすい地域を明示している。</li> <li>・宮古市田老地区の津波浸水域や被災前後の写真、東北地方の被害の図を掲載している。</li> <li>・東北地方の冷害の分布を掲載している。</li> <li>・火山と地震、主な気象災害、東日本大震災の地震と津波の分布、霧島山(新燃岳)、東日本大震災の津波の被害、土砂くずれの写真、ハザードマップの例を掲載している。</li> <li>・東日本大震災の発生年等を記述している。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料図(P88)</li> <li>・資料図、写真(P96)</li> <li>・資料図(P101-102)</li> <li>・資料図(P108)</li> <li>・資料図、イラスト(P115)</li> <li>・資料図(P123-124)</li> <li>・資料図、図、写真(P130)</li> <li>・資料図、グラフ(P130)</li> <li>・資料図(P132)</li> <li>・資料図、グラフ、イラスト(P144)</li> <li>・資料図、図(P149-150)</li> <li>・資料図(P150)</li> <li>・図(P149)</li> <li>・資料図(P150)</li> <li>・資料図(P150)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山災害への備え—島原半島—</li> <li>・広島市付近にある水害の碑</li> <li>・大阪湾周辺の地形—地形と歴史・防災—</li> <li>・富士山噴火時の降灰予想</li> <li>・洪水への備え、伝統的な輪中の家</li> <li>・東京都周辺の地形—水と人の関わり・防災—</li> <li>・都市型洪水への備え</li> <li>・東京都の大規模災害への備え</li> <li>・震災の被害と復興—岩手県宮古市(田老)—</li> <li>・雪にそなえる札幌市</li> <li>・日本の地震と火山の分布</li> <li>・東日本大震災の被害</li> <li>・自然災害に対する備え(模式図)</li> <li>・地形図から読み取る浸水被害—茨城県常総市三坂町付近—</li> <li>・浸水の予想範囲や避難所などを示したハザードマップ(部分)—茨城県常総市三坂町付近—</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「砂防堰堤」、「安中三角地帯」、「導流堤」の説明を記述している。</li> <li>・水害の碑がある場所や、2014年及び2018年の土砂災害で被害があった地域を明示している。</li> <li>・「阪神南広域防災拠点」などの、おもな広域防災拠点を掲載している。</li> <li>・降灰が堆積する範囲を図示している。</li> <li>・川の水面より低い土地や、輪中における伝統的な家について、鳥瞰図やイラストを用いて紹介している。</li> <li>・「東京臨海広域防災公園」などの、おもな広域防災拠点を掲載している。</li> <li>・東京都の調節池の位置や、地下調節池の内部について、資料図や断面図、写真を掲載している。</li> <li>・帰宅支援対象道路やおもな防災公園を図示している。また、東日本大震災での帰宅困難者数のグラフを掲載している。</li> <li>・岩手県宮古市の震災前と震災直後の津波浸水域や、復興中に住宅を建てないと決めた土地を図示している。</li> <li>・おもな融雪槽・流雪溝、おもな雪堆積場の位置を図示し、融雪槽のしくみをイラストを用いて紹介している。また、人口と除雪費の変化をグラフで掲載している。</li> <li>・1891～2018年に発生したおもな地震の震源、プレートの境界、プレートの移動方向、おもな火山(活火山)や活断層(陸地のみ)を掲載している。</li> <li>・東日本大震災の規模、津波被害地域、各地の震度を掲載している。</li> <li>・さまざまな自然災害と、防災へのさまざまな取組を模式図で図示している。</li> <li>・推定浸水範囲、15mの等高線、堤防が決壊した場所を掲載している。</li> <li>・激しい氾濫流が発生する危険性が高い範囲や指定避難所、決壊地点などを掲載している。</li> </ul>

「別紙2-6」 【 オリンピック・パラリンピックの扱い 】 (中学校 地図)

発行者	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料図(P22)</li> <li>・資料図、写真(P132)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックとサッカーワールドカップの開催国</li> <li>・東京オリンピック・パラリンピック「TOKYO2020」の会場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季オリンピックや冬季オリンピック、サッカーワールドカップの開催国を明示した世界地図を掲載している。</li> <li>・東京中心部、東京周辺部、東北、北海道地方の「TOKYO2020」の競技会場や関連施設、会場となる施設(オリンピックスタジアム、日本武道館、国立代々木競技場)や東京観光ボランティアのユニフォーム、「TOKYO2020」の新競技(サーフィン、スポーツクライミング、空手、スケートボード)の写真を掲載している。</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図(P3)</li> <li>・資料図(P129)</li> <li>・資料図、グラフ(P161)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国々</li> <li>・東京湾臨海部の開発</li> <li>・オリンピック・パラリンピック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック旗、パラリンピック旗を掲載している。</li> <li>・有明アリーナなど、東京2020オリンピック・パラリンピックのおもな会場予定地(2019年時点)に黄色い建物のマークで完成予想図を明示している。</li> <li>・夏季オリンピックや冬季オリンピックの開催国を明示した世界地図を掲載している。</li> </ul>

【別紙3】【(2)構成上の工夫】(中学校 地図)

項目 発行者	ア 「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた工夫	イ ユニバーサル デザインの視点	ウ デジタル コンテンツの扱い	エ 航空写真や 景観写真の活用	オ 環境問題への配慮
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳の基本的な活用法についての解説を設けている。(P5-6)</li> <li>・テーマごとに資料を参照できる「資料さくいん」を設けている。(P186)</li> <li>・関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」を掲載している。(P17など)</li> <li>・基本図のページには、その地域の特色を捉えることができるように、タイトル下部に「注目したい記号」を掲載している。(P30など)</li> <li>・地図を読み取る視点を、キャラクターを用いて示している。(P12など)</li> <li>・歴史的分野や公民的分野の学習に関連する資料には、「歴」や「公」のマークを示している。(P21-22など)</li> <li>・歴史的分野や公民的分野の学習に関連する資料をまとめたページを設けている。(P95-96、P131-132など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色覚特性に配慮した色づかいとなるよう工夫している。</li> <li>・ユニバーサルデザインフォントを採用している。</li> <li>等が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用した学習ができるページには「Dマーク」を示し、その地域の白地図等を閲覧できるようにになっている。(P3など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の様子が具体的に描かれるように、資料図などの近くに関連した写真を掲載している。(P22など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連合の持続可能な開発目標(SDGs)を特集するページを設け、環境問題を含む国際社会の課題について示している。(P7-8)</li> <li>・世界の環境や環境問題について、資料図、グラフ、写真等を組み合わせて具体的に示している。(P9-10など)</li> </ul>
帝国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳の基本的な見方・使い方について、「地図帳の使い方」で解説している。(P5-7)</li> <li>・実際の地形図や読み取り方について、「国土地理院の地形図」で紹介している。(P8)</li> <li>・地図の活用を練習することができるように、「地図活用」コーナーを各所に設けている。(P9など)</li> <li>・資料図のページで扱っているテーマに対して、「学習課題」として、図を読み取る際の視点を示している。(P13-14など)</li> <li>・世界州別の資料ページに、「日本との結びつき」コーナーを設け、歴史上の交流や貿易などの結び付きを示している。(P31など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色覚特性に配慮した色づかいとなるよう工夫している。</li> <li>・ユニバーサルデザインフォントを採用している。</li> <li>等が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用して学習ができるページには二次元コードを掲載し、資料やクイズ等が閲覧できるようにになっている。(P6など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の様子が具体的に描かれるように、資料図などの近くに関連した写真を掲載している。(P22など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の環境問題について、「世界の環境問題」というテーマで資料図と写真を用いて具体的に説明している。(P13-14)</li> <li>・「環境」コーナーを設けて、近年の環境問題に関する資料を示している。(P35など)</li> </ul>